

平成28年度 教育事業 新春ファミリーキャンプ

- 趣 旨 クラフト活動及び伝統文化体験を通して家族の絆を深め、家族相互の交流を図る。
- 期 日 平成29年1月14日（土）～15日（日） 1泊2日
- 対 象 者 クラフト活動や伝統文化体験に興味のある家族
- 募集定員 14家族50人
- 参加者 17家族58人
- 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員 ボランティア4人
- 7 日程と主な活動

1月14日（土）	1月15日（日）
15:00 受 付（自然の家本館）	6:00 起 床
15:30 出合いのつどい 歓迎のあいさつ 家族紹介 自然の家職員・ボランティア紹介 オリエンテーション（日程説明）	7:00 朝のつどい 7:30 朝 食 8:30 活 動「たこ揚げ」 9:15 活 動「炭火でもち焼き」
16:00 活 動「親子でたこ作り」	10:20 アンケート
18:00 夕 食	10:40 別れのつどい 保護者代表感想発表 ボランティア感想発表 送別のあいさつ
19:00 入 浴	
20:00 活 動「たこの仕上げ」「自由交歓」 「ビデオシアター」「家族間交流」	
22:00 消 灯	11:00 解 散

8 事業運営について

(1) たこは、元来日本の伝統的な玩具であるが、最近の子供たちはたこ遊びする機会が非常に少なくなっている。

また、たこを自分で作った経験がある子供も少ない。

そこで、今回は、和紙と竹ひごを使ったたこを親子で協力して作るという活動を通して、親子の交流となる場を設定した。そして、その自作のたこを揚げる活動を通して、親子で日本の伝統的な遊びに触れる機会を設けた。



(2) 炭火を使って調理をするという機会も減ってきていることから、真冬の厳寒時に炭火で体を温めながら、もちを焼いて食べるという活動を通して、親子のふれあいの場となるよう配慮した。

(3) 参加ボランティアの活動の手引きとなるように、スタッフスケジュールに沿った「ボランティアの動き」を作成し、参加ボランティア4人の活動が充実するように配慮した。

9 事業の実際

(1) 土曜授業の学校が多く、遠方からの参加も予想されたため、14日（土）の受付は15時からとし、参加者がゆとりを持って参集できるようにしたことで、時間通りに開始することができた。

(2) 「出会いのつどい」の家族紹介の中で、高学年の子供たちを中心に、元気に自己紹介できる子供たちがいた。

(3) 「親子でたこ作り」では、親子で協力したり、時には分担したりして、楽しくたこ作りを行っていた。はさみやカッターナイフなどの刃物を使用することから、事前に安全上の指導を徹底したため、けがもなく進めていくことができた。

夕食後、1枚目のたこを作り上げる中で、その手順を理解した家族のほとんどが、2枚目のたこ作りに挑戦していた。

(4) たこ作りを通して、隣席の家族間で会話する中で子供たちが仲良くなっていった。「ビデオシアター」の会場には、子供たちが10人ほど集まり、放映されているアニメを鑑賞していた。

(5) 幼児が多くいたが、全家族が朝のつどいに参加しラジオ体操を行ったり担当職員の話の聞いたりして、2日目の活動を迎えることができた。

(6) たこ揚げの際には、良く揚がるたこ、逆になかなかうまく揚がらないたこ、それぞれあったが、家族で楽しむ様子が見られた。自作のたこが思った以上に揚がったことに喜んでいる家族が多かった。

(7) 炭火でもちを焼くことが初めて経験する家族が多く、もちが膨らんでいく様子や焼いたもちのおいしさに感動していた。



10 参加者の感想

- 家族同士がみんな仲が良く、笑顔でみんなと楽しめた。また、いろいろなことが学べた。(子供)
- 学校ではできないことをできて楽しかったです。(子供)
- 子供と一緒にたこを作ることなど、家庭ではすることがない体験ができ良かったです。子供がやりたいという企画をしていただき、ありがとうございました。(保護者)
- キャンプだけれども集団生活を通して規則正しい行動がとれるようになる。また、他の家族との交流を得て、いろいろな価値観に気付くことができる。(保護者)



11 成 果

- たこ作りについては、自然の家が準備する物と各家族が準備する物とを、正確に伝えておいたことにより、諸用具等の不備もなく、スムーズに作り上げていくことができた。
- 姉弟あるいは親子でたこ作りをしている途中で、言い合いになっている家族が見られたが、作り上げた際には、2人で喜び合っている姿が見られた。また、今回を生かして、親子で協力して別なたこを作ってみたいという家族もあった。
- たこ揚げで、なかなかうまく揚がらないこともあったが、家族みんなでお楽しみことができ、歓声が上がっていた。

